様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2015～2016
課題番号：１５Ｋ１６６１５

研究課題名（和文）オイゲン・フィンクを中心とした現象学的世界概念の体系的・哲学史的研究

研究課題名（英文）The systematic and historical research of the phenomenological concept of the world with special regard to Eugen Fink's Philosophy

研究代表者
池田　裕輔（Ikeda, Yusuke）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・特別研究員

研究者番号：８０７４８５２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、現象学における世界概念の体系的および哲学史的意義を明らかにすることである。その際、特に、現象学的世界概念への貢献の大きいオイゲン・フィンクの思想を中心とした。本研究の成果と特徴は、これまで扱われることの少なかった現象学的世界概念を、(1)カントを中心としたその前史、(2)その体系的解明、および(3)その哲学史的位置づけをおこなった点にある。

研究成果の概要（英文）：The aim of this research project is to systematically illustrate the phenomenological concept of the world and to demonstrate its historical significance. The project focuses especially on Eugen Fink's philosophy that has made significant contributions to the phenomenology of the world. This research project consists of the following studies: (1) the explanation of its prehistory with special regard to Kant's philosophy, (2) its systematic reconstruction as such, and (3) the evaluation of its importance in the context of the history of philosophy .

研究分野：現象学

キーワード：世界　現象学　超越論的哲学　フィンク　フッサール　ハイデガー　カント

１．研究開始当初の背景

報告者はこれまで、エトムント・フッサール（1859-1938）とマルティン・ハイデガー（1889-1976）の高弟として、彼らの現象学的思想の内在的批判と展開により、後の現象学運動に多大な影響を与えたオイゲン・フィンク(1905-1975)、とりわけその初期の哲学・思想(1928-1940 年代初頭)を中心とする現象学運動研究に従事してきた。その研究を通じて明らかとなった課題は以下三点に要約される。

（問題点１）これまでの申請者の研究は、後の現象学運動に与えたフィンクの影響の解明に留まり、西洋哲学史全体におけるフィンク思想の位置づけを明瞭に示していない。

（問題点２）申請者の研究は、初期フィンク思想の全体像を提示する先駆的研究であったため、フィンク思想において最も大きな哲学的貢献が認められる「世界」概念の解明に更なる発展の余地を残した。現象学研究全般をみてもフッサールの「生活世界」論を除くと現象学的「世界」概念の包括的な解明作業がなされてきたとは言い難いことから（G. Brand: *Die Lebenswelt* (1971) 等参照)、フィンク思想を中心とした現象学的「世界」論の体系的解明作業の完成が必要とされている。

（問題点３）このようなフィンクおよび現象学の先行研究をめぐる状況は、現象学的「世界」論のもつ哲学史的貢献を見えにくいものとし、結果としてその現代的意義がこれまで殆ど問われてこなかった（唯一の注目すべき例外としては：L.Tengelyi: *Welt und Unendlichkeit* (2014)参照)。

２．研究の目的

上記の研究開始当初の背景と問題点を受けて、本研究は現象学運動全体における世界概念がもつ意義の体系的・哲学史的な解明を目的とした。その際、「世界の現象学」を提唱するオイゲン・フィンクの思想を特に解明の中心にすえた。本研究が必要とされる理由は、①伝統的な哲学的「世界」概念が抱える困難の解消に、現象学的世界概念が大きな貢献をもたらすことが期待されるが、②この分野での先行研究は個別の現象学者の所見を検討するに留まり、現象学運動全体における世界概念の哲学的意義の解明には至っていないからである。このことから、本研究は、三つの具体的課題に取り組んだ：

（１）哲学的「世界」概念の歴史的考察（現象学的「世界」概念の前史の解明)。

（２）現象学的「世界」概念の体系的解明。

（３）現象学的「世界」概念の哲学史への貢献の解明。

３．研究の方法

本研究は、既述の研究目的達成のために、以下の三つのアプローチを用いた：

（１）．西洋哲学史における「世界」概念の多義性の解明：現象学的世界概念の包括的解明を目的とする本研究は、哲学史上の「世界」概念の多義性を予め整理し、議論の地盤整備をおこなう。その際、現象学への影響の大きいカントにおける「世界」概念の解明を中心的作業に据え、フィンクを中心とした現象学者の「世界」概念を中心としたカント解釈の解明作業をおこなった。

（２）．現象学的世界概念の体系的解明：現象学的「世界」論に多大な貢献をなしたフィンク思想を手引きとすることで、（特にフッサールとハイデガーを中心とする）現象学運動全体における「世界」論の体系的解明をおこなった。

（３）．現象学的世界概念の哲学史的位置づけと現代的意義の解明：上記（１）と（２）の成果に基づき、現象学運動全体における「世界」概念の独自性および哲学的意義を哲学史的観点から確定し、その現代的意義を明示化した。

４．研究成果

既述のとおり、本研究課題「オイゲン・フィンクを中心とした現象学的世界概念の包括的研究」は、（１）現象学的世界概念の重要な哲学史的背景のひとつであるカントおよびカント以降の哲学的世界概念の伝統的理解の解明を目指す「世界概念の歴史的解明（現象学的世界概念の前史)」、（２）現象学におけるその哲学的・理論的展開の内実を、主にオイゲン・フィンクの思想を中心として体系的に提示する「現象学的世界概念の体系的解明」、および、（３）その哲学史的位置づけと意義を明らかにする「現象学的世界概念の哲学史への貢献の解明（その現代的意義の解明)」の三つの軸を持つものであった。以下、研究年度ごとにまとめて、成果の概要を示す。

（平成 27 年度の研究成果）

平成２７年度の研究成果は、本研究の目的に対応して、三つの主題に分類される。

（１）「世界概念の歴史的解明（現象学的世界概念の前史)」に関しては、フィンクによるカントの世界概念の解明に従事し、雑誌論文②、学会発表④の成果を公表した。これまで、ごく限られた先行研究（ほぼ唯一の例外としては、R.Lazzari, “Weltfrage und kosmologische Interpretation von Kants Kritik der reinen Vernunft”, in *Weltdenken* (2011) 38-56 を参照)において、あくまでフィンク思想に内在的な仕方でのみ言及されてきたフィンクのカント解釈を、フッサールおよびハイデガーの思想を視野に収めたうえで、その「世界」概念という観点から解明した点に当該成果の顕著な意義が認められる。

（２）「現象学的世界概念の体系的解明」については、(a) フィンクの現象学的世界概念の体系的解明と (b) これに基づく、「時間」や「感性と悟性」といった古典的哲学的問題に対するフィンクを中心とした現象学の側からの応答という観点から研究を展開した。(a)に関しては、学会発表⑤、(b)に関しては、主に、雑誌論文①、学会発表①、⑥、⑨でその成果が公開された。これまで主に後期思想から解明されることの多かったフィンクの「世界」概念（武内大『現象学と形而上学』、2010 等参照）を、主に、その前期思想を中心として解明し、その現象学的な意義を「感性と悟性」など古典的問題から具体的に示した点にこれらの研究の、先行研究には認められない意義がある。

（３）「現象学的世界概念の哲学史への貢献の解明（その現代的意義の解明）」に関しては、主に現代フランス現象学での議論を媒介とした、現象学的世界概念の哲学史的意義の解明に従事した。その研究成果は、雑誌論文⑤、学会発表②、③、⑦、⑧を通じて公開された。本研究の特徴および意義は、独自の「世界」をめぐる現象学的思索を展開したラスロ・テンゲィ（1954-2014）の思想の体系的紹介をおこなったうえで、特に、その現代フランス現象学との関連を明らかにした点にある。

（平成２８年度の研究成果）

平成２８年度は、前年度までの研究成果を受けて、以下のような研究成果を挙げた。

（１）「世界概念の歴史的解明（現象学的世界概念の前史）」に関しては、前年度のフィンクの現象学的カント解釈に関する研究を展開することで、フッサールおよびハイデガーのカント解釈の異同の解明に従事し、現象学におけるカントの世界概念の批判的受容と対決を明らかにした。これらの成果は、雑誌論文⑥、学会発表⑩、⑫などを通じて公開された。これらの研究の特徴は、これまで、あくまで独立に論じられてきた、フッサールおよびハイデガーの現象学的カント解釈を、フィンクの解釈を媒介することにより、統一的理解にもたらす基礎的作業に着手した点にある。

（２）「現象学的世界概念の体系的解明」に関しては、フッサールとフィンクの現象学的世界概念の体系的解明の更なる展開が図られた。その成果は、雑誌論文③、④、学会発表⑬、図書①を通じて公開された。これらの研究の最大の特徴は、現象学的「世界」概念を体系的に提示するだけでなく、その哲学的意義を、主に必然性/可能性といった様相をめぐる伝統的な形而上学的問題系の観点から示した点に求められる。

（３）「現象学的世界概念の哲学史への貢献の解明（その現代的意義の解明）」に関しては、主に、カントからハイデガー、現代の分析形而上学に至る形而上学的伝統の批判的検討を試みるマルクス・ガブリエルの「新実在論」を中心とした現代哲学における世界概念と対照することで、フィンクを中心とした現象学的世界概念の哲学史的・形而上学史的位置づけ作業に従事した。その研究成果は、学会発表⑪にて公開された。この研究の根本的意義は、現代における哲学的「世界」論の展開と現象学の思想の内実の比較・対照をおこなった点に留まらず、むしろ、「世界」の問題系が持つ、哲学・形而上学史のなかでの位置づけの再考を促す点にある。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　６　件）

①池田裕輔、「オイゲン・フィンクの現象学的カント解釈について（前編）」、『立命館哲学』、査読無、第２８集、pp.21-45(2017)

②池田裕輔、「フィンクの世界根源の現象学」、『現象学年報』、査読有、第 32 号（2016）、pp.67-76.

③　景山洋平、池田裕輔、長坂真澄、「ワークショップ　現象学の新たな展開―現象学的形而上学―ラスロ・テンゲィの遺作『世界と無限』をめぐって」、『現象学年報』、査読無、第 32 号（2016）、pp.51-58.

④Yusuke IKEDA, L’horizon en tant que métaphore philosophique - Réflexions phénoménologiques autour des concepts d’horizon et de monde chez Husserl, Mésologique. 査読無。
URL:http://ecoumene.blogspot.jp/2016/06/lhorizon-en-tant-que-metaphore.html

⑤ Yusuke IKEDA, Eugen Finks Kant-Interpretation, Horizon, 査読有、4-2, 2015, 154-185.
DOI. 10.18199/2226-5260-2015-4-2-154-185

⑥ Yusuke IKEDA, Das Konzept der transzendentalen Medialität bei Yoshihiro Nitta. Faktizität und ihre transzendentale-mediale Funktion, Interpretationes, 査読有 No 6, 2015, 99-111.

〔学会発表〕（計　１３　件）

① Yusuke IKEDA, Transzendentale Phänomenologie und Paradoxie der menschlichen Subjektivität, Erasmus Mundus Europhilosophie, Winterschule/Stage d’hiver 2017, 2017.2.23, ヴッパータール（ドイツ）.

② Yusuke IKEDA, Undurchführbarkeit der

Fundamentalontologie - eine „henologische“ Schwierigkeit und ihr Überwindungsversuch bei Heidegger, Erasmus Mundus Europhilosophie, Winterschule/Stage d’hiver 2017, 2017.2.20, ヴッパータール（ドイツ）.

③Yusuke IKEDA, Warum es die Welt (nicht) gibt - einige phänomenologischen Antworten, The New Faces of Realism-Metaphysics, Phenomenology, Speculative Realism, 2016.11.25,ヴッパータール（ドイツ)。

④池田裕輔、オイゲン・フィンクの現象学的カント解釈について、立命館哲学会、2016.11.13, 立命館大学（京都府)。

⑤Yusuke IKEDA, L’horizon en tant que métaphore philosophique - Réflexions phénoménologiques autour des concepts d’horizon et de monde chez Husserl, Séminaire《 Mésologique 》, 2016.3.25, パリ（フランス）.

⑥ Yusuke IKEDA, La phénoménologie transcendantale et le phénomène dans son événementialité-réflexions préliminères, Phenomenology of《Elesewhere》, 2015.11.27, プラハ（チェコ)。

⑦池田裕輔、フィンクの世界根源の現象学、日本現象学会、第 37 回研究大会、2015.11.8, 同志社大学(京都府)。

⑧池田裕輔、ラスロ・テンゲィと現象学的形而上学（ワークショップ「現象学の新たな展開―現象学的形而上学　ラスロ・テンゲィの遺作『世界と無限』をめぐって」での提題)、日本現象学会、第 37 回研究大会、2015.11.8, 同志社大学(京都府)。

⑨Yusuke IKEDA, The Origin of Sensibility and Understanding in its Temporal Dimension-with special regard to Husserl and Fink, Special Lecture, 2015.9.21, モスクワ(ロシア).

⑩Yusuke IKEDA, Kant-Interpretation bei Eugen Fink, Classical German Idealisms and Phenomenology, 2015.9.14, サンクト・ペテルブルク（ロシア）.

⑪ Yusuke IKEDA, La nouvelle phénoménologie française ? Le phénomène dans son événementialité selon Neue Phänomenologie in Frankreich 2, Special Lecture, 2015.9.11, モスクワ（ロシア）.

⑫ Yusuke IKEDA, La nouvelle phénoménologie française ? Le phénomène dans son événementialité selon Neue Phänomenologie in Frankreich 1, Special Lecture, 2015.9.10, モスクワ（ロシア）.

⑬Yusuke IKEDA, Contengence et Necessité du monde selon Husserl et Fink - Perspectives phénoménologiques, Phénoménologie à l’œuvre : Allemagne-France-Japon, 2015.4.25, 関西学院大学大阪梅田キャンパス（大阪府）

〔図書〕（計　1　件）
① 米虫正巳、ディディエ・フランク、池田裕輔、ドミニク・プラデル、ヴァンサン・ジロー、杉村靖彦、ミカエル・フェッセル、落合芳、服部敬弘、エマニュエル・カタン、フランソワ=ダヴィット・セバー、法政大学出版局、『フランス現象学の現在』(2016)、350（43-107)。

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
池田　裕輔　（IKEDA, Yusuke）
東京大学・大学院人文社会系研究科・特別研究員（ＰＤ）
研究者番号：80748525

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
ハンス・ライナー・ゼップ（SEPP, Hans Rainer）
プラハ・カレル大学教授（チェコ）
ゲオルギー・チェルナ―ヴィン(CHERNAVIN, Georgy)
国立経済大学助教（ロシア）
斎藤元紀(SAITO, Motoki)
高千穂大学
景山洋平(KAGEYAMA, Yohei)
東京大学